

お知らせ

## 糸魚川から発見された日本最古のサメの歯の化石について

約4年前に糸魚川市小滝の石灰岩から糸魚川市民が発見した化石が専門家によって研究された結果、日本で最古であり、世界的に珍しいサメの歯の化石であることがわかりました。このことについて今月29日に高知大学での日本古生物学会で報告します。詳細は以下のようです。

1. 2006年8月18日、糸魚川市南寺町在住の佐藤毅一（きいち）さん（年齢68歳）（フォッサマグナミュージアム友の会会員）が、フォッサマグナミュージアムの『化石の谷』に置かれた糸魚川市の小滝川産の土倉沢石灰岩から化石を含む岩塊を見つけた。自宅に戻って採集した石灰岩から化石を掘り出す作業中に、見慣れない奇妙な形をした歯と思われる化石を発見した。
2. 佐藤毅一さんは翌8月19日、この化石をフォッサマグナミュージアムに持参し、化石が専門の学芸員（茨木洋介）に何の化石であるか聞いた。茨木はサメの歯の化石などに詳しい愛知県江南市在住の大倉正敏氏（化石ハンターとして全国的に有名）に鑑定を依頼した。大倉氏は大英博物館へ行って文献などでこの化石を調べた後、茨木と相談し、サメの歯化石の権威である鶴見大学短期大学部歯科衛生科の後藤仁敏（まさとし）氏に化石を送って研究を依頼した。後藤教授の研究によりサメ（コクリオドゥスのなかま）の歯の化石であることがわかった。
3. 来たる1月28（金）～30日（日）に高知大学で開かれる日本古生物学会第160回例会にて、鶴見大学の後藤教授により、研究の成果が口頭発表される。発表は1月29日の午前9時からである。
4. 同じ石灰岩から見つかっている化石から、古生代石炭紀前期（3億3千万年前）に生きていたサメと考えられ、今回発見された化石は国内最古のサメの化石となる。
5. コクリオドゥス科のサメの化石は、国内からは岐阜県などから4種が発見されているが、今回発見されたものが日本で最も古い。また、今回の歯の化石非常に特異な形態をしており、貴重な発見である。
6. 今回化石が見つかった土倉沢石灰岩からは、国内初産出の化石の発見が続いており、研究をさらに継続することによって国内で随一の地質多様性を持つ糸魚川ジオパークの価値がさらに高まるだろう。

この件についての問合せ先

フォッサマグナミュージアム 茨木 洋介 (学芸員)

Tel. 025-553-1880

Fax. 025-553-1881

E-mail: [yousuke.ibaraki@city.itoigawa.niigata.jp](mailto:yousuke.ibaraki@city.itoigawa.niigata.jp)

以上